



Book Review

評者：鳥井元純子

大阪府看護学校協議会会長／美原看護専門学校学校長

看護教員のための学校経営と管理 第2版

編集：中山富子／本体3,000円＋税

発行：医学書院／TEL：03-3817-5650



自校の活動に置き換えて、教育の向上をめざそう

本書の初版を読んだとき、都立の看護専門学校は互いに連携を取り合い、定期的に校長会をもつことで、教育の透明性、健全性、遵法性を高め、併せて説明責任を果たし管理責任の明確化を図ることで、平等な教育の実施、学力の向上を実現したのだと思った。そして、その実践過程がわかりやすく書かれていたことから、全国の看護専門学校の管理者や看護教員のバイブルに近い存在となることが容易に想像できた。

私が大阪府看護教員養成講習会で「看護学校経営」の講義を担当するようになったのも、この初版が刊行された頃であった。看護学校の経営や管理について系統立てて構成された本書の初版は受講生にもとても理解しやすく、以来参考文献の最初に記載するようにした。また、教務主任養成講習会の「看護学校経営」においても同様に活用してきた。

第5次指定規則改正を前に発行された第2版は、初版・増補版をふまえながら、より具体的に取り組みが示されており、管理者、専任教員それぞれの立場で、看護学校の経営と管理とは自分たちが実践していくものであると、より実感させられる内容になっている。そう、管理者のための、ではなく、まさに表題のごとく「看護教員のための」という言葉がぴったりとあてはまる内容であるとあらためて感じる。

本書の序文に「本書が看護専門学校で働く管理者

や看護教員のお役に立つことができれば」とあるように、都立という組織のなかだけではなく、どの学校においても活用してほしいと考え続けておられ、わが国の看護教育の向上への助力を惜しまない精神がととてもすばらしいと感じた。特に第3章ではカリキュラム編成についてその考え方、編成の過程、都立看護学校のカリキュラム構成、評価まで非常にわかりやすく記されていて、看護教育カリキュラムの改正に向けて作業に取り組むときの道標にもなるのではないかと考える。さらに第8、9章においては、リスク管理や情報管理について近年の課題をふまえ、具体的に細やかな視点での対応などが記されており、各看護学校においても取り組みの参考にできると考える。

都立の看護専門学校の実践をそれぞれの学校での看護教育に置き換え、自校ではどのように考えるかの指標にしたり、各校が連携をとりつつ看護教育を考えるときの共通の教材になると思える。

今回のカリキュラム編成にあたり、本書が多くの看護教員の必読の書であり、学校経営と管理は決して管理者だけが取り組むものではなく、看護教員にこそ意識して実践することが必要だと伝えてくれる重要な1冊であるという思いをさらに強くした。第2版も、私のそばで常に刺激を与え続けてくれる大切な本である。